



JCHO 仙台南病院

令和8年7月発行

登録医ニュース



絆

きずな



登録医療機関 (令和8年7月現在)

170 施設 197 名の先生方にご登録いただいております。



7月号 広報誌 掲載内容

- ☐ 外科紹介 (腹部救急疾患・癌治療について)
- ☐ 皮膚・排泄ケア認定看護師紹介 事例紹介
- ☐ レスパイト入院のご案内

当 院 外 科 診 療 の 現 状

登録医の先生方、スタッフの皆様方には、日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。仙台南病院外科の兒玉と申します。

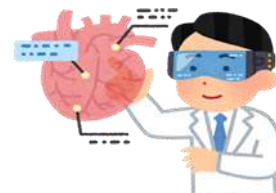


外科診療部長 兒玉 英謙

（はじめに）

最近 AI の進歩が目覚ましいようで、家庭や職場の悩みもまずは AI に相談したり（巨人軍の監督さんが辞任するニュースも御座いました）、医療の世界でもカルテのサマライズや研究発表などに AI を利用することが増えているようです。外科領域もロボット手術が普及してきており、いずれは熟練医の手技をマスターしたロボットが若手の手術指導をしたり（ここを切ると良いですよ、そこは出血するので止めましょうなどなど、ロボットなので決して感情的にならずに優しく指導してくれるでしょう）、最終的には手術の完全自動化も夢ではないかもしれません。

既に CT やレントゲン、内視鏡などの画像支援システムを活用されている先生方もいらっしゃると思いますが、診療を円滑に進めるために AI のサポートが今後増々重要になってくるのかもしれません。



（当院外科診療について）

私ども JCHO 仙台南病院外科は、遠藤公人（平成元年卒）、兒玉英謙（平成 6 年卒）、平嶋倫亮（平成 23 年卒）の 3 名で診療しております。

外科の看板を掲げておりますが、総合診療科的な役割も担っており、地域の皆さんの様々なご要望に応えるべく日々診療に当たっております。

手術は鼠径ヘルニア、胆石症、虫垂炎、胃や大腸などの消化管手術をはじめ、肝臓癌や膵臓癌などの肝胆膵領域についてもご要望が御座いましたら対応しております。当院は手術までの待期期間が比較的短く、術後のリハビリ療養は時間をかけてじっくり出来ることが特徴です。悪性疾患の場合は、必要に応じて抗癌剤治療を行ったり、終末期の緩和ケアも担っております。

在宅治療を希望される患者さんには、往診医の先生への橋渡しを行い、入院治療が必要な際はバックアップ施設として利用頂けるようにしています。



また、担当科の選定が困難なフレイルや誤嚥性肺炎など様々な問題を抱えた高齢者の診療にも携わっております。介護者の方の入院治療が必要になったり、在宅介護が困難となった際には、（被介護者の方の）レスパイト入院も対応しておりますので、遠慮なく地域医療連携室までご相談ください。



その他、褥瘡や蜂窩織炎、带状疱疹などの皮膚科疾患や、転倒や交通事故などの一般外傷で自宅に帰すのが心配な場合も、整形外科や内科と連携して迅速に対応致しますので、お気軽に地域医療連携室までご連絡頂けましたら幸いです。

（腹部救急とがん治療について）

本日は、普段よく遭遇する腹部救急疾患についてと、癌治療の最近のトピックスを交えながらいくつかご紹介したいと思います。

外科的治療が必要となる代表的な腹部救急疾患としては、胆嚢炎、虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔などが挙げられます。

胆嚢炎は、胃のあたりの痛みやむかむかして食欲がないなど、胃十二指腸疾患や虫垂炎（虫垂炎も上腹部痛で受診される場合が御座いますので）と紛らわしい症状で来院されることがしばしばあるかと思えます。とりあえず胃薬を処方して改善しなければ内視鏡検査を考えたいくなりますが、まずは超音波をお勧めしております。

超音波による胆石の検出率は 80～90%と報告されており、胆嚢の腫大や壁の浮腫状変化、胆泥の貯留、および Murphy 徴候などの随伴所見があれば胆嚢炎の診断も可能です。CT では純コレステロール結石など石灰化の乏しい胆石は検出できないため注意が必要です。胆管結石や胆管の走向異常、および膵・胆管合流異常症の診断には MRI が優れています。

併存症のない全身状態の良好な胆嚢炎の場合は Tokyo Guidelines 2018 に沿って早期手術が選択されますが、ご高齢で心肺機能に問題のある患者さんでは、必要あれば経皮的胆嚢ドレナージを追加して全身状態を十分に評価した後に、待機的に手術するかどうかを判断しております。

最近、脂質異常症で使用するフィブラート系薬剤（パルモディア、ベザトールなど）を内服中の高度胆嚢炎の患者さんを数人経験致しましたが、これらの薬剤は胆汁へのコレステロールの排泄を増加させて、胆石のリスクが増大することが報告されておりますのでご留意ください。抗菌薬のセフトリアキソン（ロセフィン）も、胆汁中に排泄された成分が沈殿物と結合して胆石を形成するリスクが報告されており注意が必要なようです。

次に腸閉塞*について述べさせていただきます。

（※急性腹症ガイドラインでは、機械的閉塞のある場合を腸閉塞と定義し、器質的な閉塞のない麻痺性の場合のみイレウスと定義しております）。

手術歴のある患者さんでは癒着性腸閉塞が鑑別として思い浮かびやすいですが、手術歴がなくても大網裂孔ヘルニアや傍十二指腸ヘルニアなどの内ヘルニアや生理的な癒着（バンド）によって腸閉塞を来す場合が御座います。ご高齢で訴えのはっきりしない患者さんでは鼠径ヘルニアや大腿ヘルニアの嵌頓による腸閉塞もピットホールとして挙げられます。

ほかに忘れてはならないのが大腸癌による腸閉塞です。患者さんのお話をよく聞くと、以前から便秘や腹満感、排便困難感や下痢、血便などの腹部症状を自覚されている方もいらっしゃいます。このような患者さんの何気ない訴えを拾い上げて、スクリーニング検査につなげることが重要と考えています。学生の頃に教わったフレーズ “Listen carefully to the patient’s complaints. He is telling you the diagnosis.” を忘れないようにしたいです。抗凝固療法を受けていらっしゃる方では貧血の進行を契機にみつける場合も御座いますので、そのような患者さんにはスクリーニングの血算や便潜血のチェックが有用かと思われます。



話題は変わりますが、近年死亡率が増加している消化器の癌といえば膵臓癌です。逆に減少傾向にあるのが肝臓癌です。肝臓癌が減少しているのは、抗ウィルス療法やワクチンの普及による肝炎ウィルスの制御が大きく寄与していると考えられます。

しかし、近年 MAFLD (Metabolic dysfunction-associated fatty liver disease) と呼ばれる糖尿病や脂質異常症などの代謝異常による脂肪肝をベースとした肝臓癌が増加しており、糖尿病や脂肪肝のある患者さんでは、超音波などを用いた定期的なスクリーニングが重要と考えられます。

肝臓癌の治療は、TACE (カテーテル治療) やラジオ波焼灼、ソラフェニブなどの抗癌剤治療や外科的切除などに加えて、2020 年に免疫チェックポイント阻害剤 (アテゾリマブ) と血管新生阻害剤 (ベバシズマブ) の併用療法や、2023 年には免疫チェックポイント阻害剤の抗 PD-L1 抗体薬と抗 CTLA-4 抗体薬を併用したデュルバルマブ+トレメリムマブ療法が新たに登場しました。

当院にも、2023 年 4 月より肝臓内科医の長崎医師が赴任されましたので、肝疾患でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。

さて肝臓癌が減少している一方で、増加しているのが膵臓癌です。2019 年に公表された臨床試験の結果、術前化学療法を施行後に手術をした方が、手術を先行した場合よりも治療成績が良いことが明らかになりました。手術後も再発予防の補助化学療法を半年間行うことが推奨されております。近年、ゲムシタピンとエスワン療法に加えて、FOLFIRINOX (オキサリプラチンやイリノテカンなど) 療法や、アブラキサン (アルブミン懸濁型パクリタキセル) やオニバイド (ナノリボソーム型イリノテカン) などが登場し、今年の国際学会では新たに KRAS 阻害剤 (ダラクソンラシブ) の臨床試験の良好な結果が公表されました。いずれは国内でも承認されることが期待されますが、やはり早期発見が重要であることに変わりはありません。超音波検査で末梢膵管の拡張を認めたり、血糖コントロールの増悪や、胆管狭窄による肝機能異常などが発見の契機になることが報告されておりますので、これらの徴候を見逃さないことが重要と考えております。

最後に、当院は高級レストランのような有名シェフや高級食材は御座いませんが、近所にあれば嬉しい和・洋・中揃ったファミリーレストランのような存在でありたいと考えております。地域の皆様が少しでも安心して過ごせるように、登録医の先生方と力を合わせてサポートして参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



皮ふ・排泄ケア認定看護師より ご挨拶と事例紹介

(ご挨拶)

私は JCHO 秋田病院から仙台南病院に赴任して今年で 4 年目を迎えます。私の生まれ故郷である能代市はバスケの街としても名を誇るところです。毎年ゴールデンウィークには「能代カップ」が開催され、全国の強豪高校が集まり熱戦を繰り広げています。また、ナマハゲで有名な男鹿半島の岬にある男鹿水族館 GAO では、昨年 12 月にホッキョクグマの“豪太”と“モモ”の間に生まれた子ども“モモ太”がすくすくと成長していく姿が話題となっています。機会がございましたら、ぜひ自然豊かな秋田へ足を運んでみてください。

ボクが男鹿水族館 GAO のモモ太です



副看護部長 五十嵐 元子



さて、私は副看護部長の役を担っているところですが、一方で皮膚・排泄ケア認定看護師として、微力ながら訪問看護、同行訪問、ストーマ外来に携わる機会があります。皮膚・排泄ケアは、創傷、オストミー（ストーマ）、失禁ケアを専門分野としています。その専門性を通じて患者さんやそのご家族との関わりの中で、患者さんなりのケアの工夫やこれまでの人生観を知ることができ、逆に私の方が学び多く貴重な機会を得ています。



なご泣く子はいねえが〜

(同行訪問にて携わった事例紹介)

これまでの経験から私が同行訪問に関わった一事例を紹介させていただきます。

患者さんは下半身不随のためベッド上で過ごすことが多く仙骨部にポケットを保有する難治性の褥瘡が発生しており、毎日訪問看護師が介入し褥瘡処置を行っていました。高齢の妻と二人暮らしでしたが、妻へ手間をかけないようにと車いすへの移動など自分でできることは自分で行っていました。あるとき、患者さんから「疲れてしまった。褥瘡はいつ治るのか。毎日処置しなくてもいいのではないか。」といった訴えがありました。詳しく伺うと、看護師が訪問する時間に合わせて食事時間をずらしたり、排泄物の処理をして準備したり、数か月もこの状態が続き疲れてしまった、息つく時間が欲しいといった内容でした。このことから、医療従事者は患者さんのためと思い褥瘡を完治させることを目標にケアを行っていたことが、いつの間にか患者さんとの間で目標にずれが生じてしまっていたことにハッと気づかされました。在宅で療養する患者さんにとって治療が主体ではなく生活が主体であって、患者さん一人ひとりによって求めるもの、価値観が違うことを改めて知り、同時に限られた時間の中で患者さんの意向を汲み取ることの難しさを実感しました。在宅療養をする患者さんの QOL には全人的ケアが必須であることを念頭に、患者さんに係る全ての人が情報を持ち寄り、最良のケアを提供できるようにしたいと考えます。

地域包括ケアシステム構築の重要性が注視されてからはや十数年経過しています。高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目指し患者さん中心のケアの一助となれるように、これからも地域の医療機関の皆様と連携しながら最良のケアを提供できるよう、より一層努力して参ります。

要Check!

診療科のご案内

内科・循環器科・外科

曜日：月～金

新患受付 11:00 まで

呼吸器内科（非常勤医師）

曜日：金のみ

新患受付 9:30 まで

※病状によっては内科医師での対応となります

泌尿器科

※水曜日:手術日・木曜日:制限あり

曜日：月・※水・※木・金

新患受付 11:00 まで（木曜のみ 10:30 まで）

整形外科

曜日：月・火・水・金

新患受付 10:30 まで

内科・循環器科・外科 は予約なしで受診いただけますので、どうぞお気軽にご紹介ください。
呼吸器内科 も予約なしで受診いただけますが非常勤医師のため、緊急の患者様は内科医師での対応となる場合がございます。



レスパイト入院のお知らせ



お気軽にご相談ください

当院は、在宅で療養生活を送っている患者さんや、ご家族を支援させていただく為、レスパイト入院の受入を行っています。介護している家族が急病で困ったなど、急なご利用にも対応可能ですので、ご連絡下さい。

ご利用手順（申込書は当院ホームページよりダウンロード可能）

1. レスパイト入院のご相談

かかりつけの先生もしくは訪問看護ステーション、担当ケアマネジャー、地域包括支援センターより地域医療連携室へ TEL：022-306-1740

2. 「レスパイト入院申込書」を記載し、診療情報提供書と一緒に地域医療連携室へ FAX：022-306-1741

3. 日程調整後、当院担当者よりお返事いたします。

先生方のお休み期間
など、どうぞご利用
ください



発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番 代表 TEL 022-306-1711・FAX 022-306-1712

地域医療連携室 直通 TEL 022-306-1740・FAX 022-306-1741